福田進一ギターリサイタル

Shin-ichi Fukuda Guitar Recital

センプレ演奏会 第20回記念

福田進一 *Shin-ichi Fukuda*

1955年大阪生まれ。12才より故斎藤達也に師事。21才で渡欧、パリのエコールノルマル音楽院にてギターをアルベルト・ポンセ、和声とアナリーゼを ナルシス・ボネに師事。
卒業後、イタリアのキジアーナ音楽院でオスカー・ギリアに学ぶ。数々の国際コンクール入賞後、1981年パリ国際ギター・コンクールで優勝。以後、内外で輝かしい賞歴を重ねるとともに、日本を代表する名手として国際的な演奏活動を続け、絶えず世界中のファンを魅了している。また、教育活動にも力を注ぎ、その門下から鈴木大介、村治佳織、大萩康司ら若手ホープを輩出。現在は世界各地の音楽院に客員教授として招かれている。
2008年3月にはアントニー国際フェスティバル（フランス）でアランフェス協奏曲を演奏。5月はレオ・ブローウェルより献呈された新作協奏曲「コンチェルト・ダ・レクイエム」をコブレンツ国際フェスティバル（ドイツ）にて、R.バウマン指揮ライン州立管弦楽団と世界初演。7月にはスペイン・コルドバでの「ジュリアン・ブリーム75歳記念演奏会」に出演。作曲者ブローウェル指揮コルドバ交響楽団と「アルベニス（ブローウェル編）:イベリアからの3楽章」「コンチェルト・ダ・レクイエム」を再演、楽界に大きな話題を提供した。
8月には全米ギター協会GFAコンベンション（サンフランシスコ）のメインゲストに招かれ、ソロリサイタルとコンクール審査員を務める。自らもHakuju（東京）、庄内国際（山形）と、2つのギターフェスティバルの音楽監督を務めた。
2009年には、4月に上海フェスティバル、5月ハインスベルグ国際フェスティバル（ドイツ）に出演し、8月のHakujuギター・フェスタではファジル・サイの新作ギター曲を、9月には北爪道夫の新作協奏曲を世界初演。30年近いキャリアのなか、そのディスコグラフィーは既に50余枚におよび、それらはピリオド楽器を使用したバロックや古典から、タンゴやフュージョン、映画音楽にいたるまで、広大なレパートリーを網羅している。2002年、CD「セビリア風幻想曲」(MM-1148)で第58回文化庁芸術祭賞レコード部門優秀賞受賞を受賞。2007年は、飯森範親指揮ヴュルテンベルグ・フィルハーモニー管弦楽団と共演した初の協奏曲アルバム「アランフェス協奏曲」(COGQ-25)が、レコード芸術、音楽現代など、各誌で絶賛を浴びた。
また、その国際的な活動に対して「平成19年度外務大臣表彰」が贈られた。
公式HP http://web.me.com/cadenza_fukuda/